

令和3年産ミニトマト本番

今年も品質良好

～収穫作業本格化～

7月上旬、JA管内でミニトマトの収穫が本番を迎えました。令和3年産は昨年より1畝多い19.1畝、生産者は新規作付け者9人を含む178人。出荷は7月下旬から8月上旬がピークとなり11月いっぱいまで行います。昨年より多い1099トンを計画しています。

平賀基幹支店管内の古川将路さんは7月2日、色づいたミニトマトを収穫しました。古川さんは約1200坪の面積で栽培し、長期的に収穫できるように4月と6月に苗の植え付けをしています。収穫したミニトマトはパックに詰め、翌朝JAへ出荷しました。

古川さんは「天候に恵まれ生育は良く、収穫作業は順調に進んでいる。今後も誘引、交配処理の作業と並行しながら進め、徹底した栽培管理でおいしいミニトマトを消費者へ届けたい」と話しました。



ミニトマトを収穫する古川さん

夏場の栽培管理を確認

～栽培講習会～

6月21日、平賀地区でミニトマトの栽培講習会を開き、JA管内の生産者約60人が参加しました。

トキタ種苗株式会社の社員が講師を務め、追肥や梅雨明け後の管理方法を説明。「植物体の基本となる窒素やリン、カリウムの他にカルシウムとマグネシウムを供給して病害虫の発生を抑え、樹勢強化を図る。生理障害対策と安定着果のため、かん水や誘引、薬剤散布を適切に行う」と話しました。



夏場の栽培管理を確認する生産者

着色の選別しっかり

～出荷説明会～

6月24日、平賀園芸センターでミニトマトの出荷説明会を開きました。生産者約90人が参加し、出荷規格などを確認しました。

平賀園芸センターの伊藤嘉信さんが品質基準の説明と、カラーチャートを使用して着色の選別を徹底するよう呼び掛けました。



出荷規格を確認する生産者